

第23回  
2016年度 関西詩人協会総会ご案内  
『関西詩人協会 自選詩集』第8集 出版記念会

当会は会員の皆さまのご参加で成り立っています。  
年に一度の総会へどうぞお運び下さい。  
会員になられてない方も参加可能です、  
お誘い合わせてどうぞおいでください。

日時 2015年11月20日(日) 総会13時00分より(受付12時30分)  
会場 大阪リバーサイドホテル 5F  
(環状線桜の宮駅西口から右へ高架下を潜り抜けて100メートル  
程直進、右側。徒歩3分)  
〒534-0027 大阪市都島区中野町5-12-3 ☎06-6928-3251  
参加費 総会 会員無料 一般500円 謹親会 会費6000円

第1部 総会 13:00 ~ 17:00 司会進行 釣部与志委員

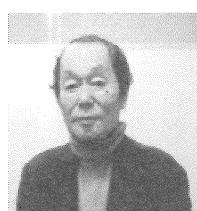
物故者への黙祷

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| 1、開会挨拶            | 大倉元委員    |
| 2、代表挨拶            | 有馬敲代表    |
| 3、議長選出            |          |
| 4、議事              |          |
| ①運営事業報告           | 佐古祐二委員   |
| ②会報発行報告           | 永井ますみ委員  |
| ③会計決算報告           | 岩井洋委員    |
| ④会計監査報告           | 瀬野とし監査委員 |
| ⑤インターネット・ホームページ報告 | 松村信人委員   |
| ⑥次年度事業計画          | 名古きよえ委員  |
| ⑦次年度予算案           | 岩井洋委員    |
| ⑧運営委員選挙管理委員会      |          |
| ⑨質疑応答             |          |
| ⑩議案採決             |          |
| 5、議長退任            |          |

休韻

講演 山田兼十氏

「谷川俊太郎の世界 その作品をめぐって」



- 6、自選詩集より朗読 外村文象・嵯峨京子委員  
朗読者：内田縁・加藤千香子・北村真・徳永遊・司茜・禾悠花・橋爪さち子会員  
7、本年度会員が出版した詩書紹介 田村照視・すみくらまりこ委員  
8、新入会員紹介 奥村和子・佐相憲一委員  
9、閉会挨拶 原丰治委員

**第2部 獨創会 「古典芸能を楽しむ」 17：00～19：00**

司会進行	榎次郎・吉田定一・近藤摩耶委員
開会挨拶	薬師川虹一委員
1、石見神楽より「恵比寿舞」	松村円氏・松村正則氏
2、明暗古典本局尺八と生田流箏曲	西口芳男氏・栗本和子氏
3、コーラス K P A合唱団	当日会員により結成
閉会挨拶	村田辰夫委員

※同封の総会出欠ハガキにご記入の上、投函してください。

關西詩人協會會報

第 83 号

2016.10.1

発行者 有馬敲

①総会のご案内  
②詩画展と詩話会の報告  
③『自選詩集』中間報告／会費納入について／今後の予定／HPだより／子引き孫引き／お知らせ  
④新会員の詩（山田兼士・和田美恵子・美濃吉昭・諸行響）  
⑤関西詩人協会イベント2016へのご案内／「会員の活動」はあなたの頁です／退会者・住所変更／新会員の紹介（阪井達生・小林聰）／運営委員会のもよう  
⑥会員の活動／会員の編集発行詩誌／会員の発刊詩書／団体の会報・図書

## 詩画展と詩詠会の報告

第25回詩画展（9月1日～14日 市立大阪中央図書館）

今回は会場の都合で初夏ではなく晩夏に開催となつたが、出展者30名、質の良い展示だった。

必ず作品に詩をそえられており、又、各詩人の工夫がみられた展示が良かつた。ギャラリーを通して「今は何でもありというか絵の世界でも油とパステルなんてね」と言う人がいたが、幅広い流儀の結びつきや、コラボレーションがはやつているという意味だろうか。

それぞれの作品では、「上手な毛筆に目をひかれ、詩の内容とのギャップで又驚かされた」や「写真のシャツターチャンスが凄いが全体のトーンと影のゆらぎが都会の孤独を感じさせる」など、感想はいろいろ。今回は時間が許すかぎり委員が会場に詰めるようにして、感じた事だった。（近藤）



### 詩画展参加者

秋野光子、市原礼子、井上良子、大倉元、尾崎まこと、梶谷忠大、和比古、香山雅代、岸本嘉名男、北口汀子、近藤摩耶、斎藤明典、榎次郎、左子真由美、佐藤勝太、田島廣子、司茜、外村文象、永井ますみ、中尾彰秀、名古きよえ、苗村和正、西きくこ、禾悠花、橋爪さちこ、原圭治、松原さおり、村野由樹、森ちふく、吉田定一

詩詠会（9月11日・西区民センター）

詩画展が開かれている丁度中日に、詩詠会が持たれた。有馬敵代表は体調不良で欠席だったため、大倉元事務局長の挨拶で始まり、一部の佐古祐二氏の講演は予定通りだったが、二部の即時翻訳の企画は担当の村田辰夫氏の体調不良のため、実現できなかつた。そのため、二部はあらかじめ提出していた五行詩を作者本人が前へ出て朗読した。

### 一部 講演 佐古祐二「詩はすてきなもの！」

#### 詩の実作のためのヒント

講師は最初に「詩は教えられるか」という問題を投げかけておいて、一般的な詩の作り方は「教えられない」とご自身の即答があつた。詩の生まれ出方は違うので、教えようとするときどうしても鑄型にはめてしまうという事だ。

レジュメには詩のかたちについて、行分け詩と散文詩の違い。（詩には、音数律・内在律・韻などのリズムがある。内在律を大切にしたい）表記文字の選択について。（ひらがな・漢字・カタカナの必然性や姿がそこにふさわしいかどうかを見定める）これは作品の中で何を言いたいかで変わってくる。語感も重要であつて、厳しさや優しさは外国语であつても感じるものである。体験の持つ意味は皆さんも分かっているでしようが事実を書けばリアリティがあるとは言えない。読む人の体験に訴えるようにしたい。書き方としては描写に徹するのも一つの方法である。叙述の順番も変えることで詩の効果は変わつてくるものである。モントージュは一片ずつのシーンを積みあげる手法で映画において表現技法として磨かれているのでそれを拝借する方法など、用意されたレジュメに沿つて詳細に解説された。間には、ご自身の詩や杉山平一、左子真由美、黒田三郎、プレヴェール、ハラキン、ポール・エリュアルの詩を、適宜朗读引用しながら話が続いた。完成された詩として、我らの青春の歌、喜多條忠作詞、南こうせつ作曲

の「神田川」を当時の社会情勢と最後のワソフレーズが出なかつたという作詞事情を解説の上朗読されたのだが、かすかにメロディに乗つていているのが僭越ながら頬笑ましく感じた。講師自身は息遣いを孕んだ内在的韻律とポエジーに満たされた詩を美味しく賞味したいものだと締めくられた。

### 二部 自作詩朗読

先述のように、用意した五行詩を各自が朗読した。司会は榎次郎委員だつた。

#### 朗読した会員

青島江里、秋野光子、市原礼子、おうえさつこ、香山雅代、北口汀子、榎次郎、佐藤勝太、田島廣子、田村照視、寺西宏之、永井ますみ、中尾彰秀、名古きよえ、福田ケイ、藤谷恵一郎、松原さおり、和田美恵子。

#### 右以外の参加者は次の通り

井上良子、今井豊、岩井洋、大倉元、尾崎まこと、和比古、近藤摩耶、嵯峨京子、左子真由美、佐古祐二、瀬野とし、鈴木与志、寺沢京子、外村文象、原圭治、西きくこ。他外部より一名参加。（参加者35名）





詩はいつ来るのか

山田兼士

心

和田美恵子

人為「どうしたものか」

美濃吉昭

「つなぐ」「つながる」「つなげる」

諸行 韶

夜明け前に

詩が

來た — 谷川俊太郎  
「檻樓」より

心を開く 心を閉ざす

ここに扉があるのかしら

心が明るい 心が暗い

ここには光がさすのね

心が凍る 心が温まる

こころの温度は何度なの

心が弾む 心が沈む

てまり こころつて 手毬になつたり 毛藻になつたり

心が晴れる 心が曇る

こころつて 空色になつたり 灰色になつたり

ひとつの同じ心が

時には……

そして時には……

だから大切にしましようよ

自分の心も  
相手の心も  
ね！



よあけまえにしがきた  
あの三行は実にすてき  
けはいだけはあつたが  
まだぼくにはこないし  
えいえんにとどくのに  
にんげんはそのてまえ  
しの少し前でつかのま  
がまんをしてまつだけ  
きもちをしづめてああ  
たいせつなしがくるよ

(『びーぐる』 32号より)

屋上の、庭の棚が朽ちていた  
鉢が傾いていた  
寒菊の幹が  
く の字になつて立つている

「すまん、ゆるせ！」  
大地が傾いたときは  
さぞ、仰天したことだろう

「さて、どうしたものか」

戻すとしても く の字が  
くく の字になるのでは……

しかし  
もしかしたら

しかし

私の身体も  
く の字かもしけれない

私の大地は  
傾いているのかもしけれない

まつすぐに立たねば

足許はコンクリートと鉄とガラス  
スロープ 階段 エレベーター

「はて、みえない大地？」

「つなげる」「つなげたい」などと  
いう言葉遣いが出てきたら、そこか  
ら先は原則として読まないことにし  
ていて。テレビ報道の場合なら、そ  
こから先は聞かないことにしている。  
言葉に対する美的センスの乏しい人  
の文章をそれ以上、読むないし聞く  
気がしないのである。

「つなぐ」というれつきとした他  
動詞が元々あるのに、どうして「つ  
なげる」などと平気で口にするのだ  
ろう。「お手々つなげ（みな帰ろう）」  
であつて、「お手々つなげて」では汚  
な過ぎる。

この俗語の成立事情は容易に察し  
がつく。「つなぐ」という他動詞が元  
々あつて、それが自動詞化して「つ  
ながる」となる。ここまでではごく自  
然だ。この「つながる」を再び他動  
詞化する際に、元々の「つなぐ」を  
放つたらかしにして、「広がる→広げ  
る」「曲がる→曲げる」などの連想か  
ら、「つなげる」となったのにもがい  
ない。これはしかし論理の筋を外し  
ていて。非論理的である分、美的で  
ない。今では、これが既に市民権を  
得て、一応辞書にも収録されている  
ようだ。どんな言葉も多数者が使え  
ば、確かに言葉としては成立します  
が、確かに言葉としては成立しませ  
ん。しかし芭蕉も言っている、俳諧  
の欲目一つは俗語を正すことにつ  
いて。(『三冊子』)。

## 関西詩人協会イベント2016のご案内

講演・演奏・朗読の午後

日時	2016年10月8日（土）
午後1時30分～4時（開場1時より）	
場所	エル・大阪 プチエル（地下）
	大阪市中央区北浜東3-14
参加費	800円
講演	「体はことばを奏でる楽器です」 （心に届く朗読を）
演奏	中野喜美子氏（ピアノ）立川正美氏（サックス）崎元蘭奈氏（チェロ） 演奏曲…タイスの瞑想曲・マスネチャ ルダッシュ・モンティ他
第1部	花むらてん氏（朗読家　吹田市在住）
第2部	中野喜美子氏（ピアノ）立川正美氏（サックス）崎元蘭奈氏（チェロ） 演奏曲…タイスの瞑想曲・マスネチャ ルダッシュ・モンティ他
第3部	花むらてん氏（朗読家　吹田市在住）

「駅」をテーマにした5行詩朗読  
＊自由テーマの5行詩朗読

講演では朗読のプロ活動されている、花むらてんさんに、朗読の技術的な事柄について、お話しをしていただきます。

会員以外の友達もお誘いの上、参加して頂きますように。  
出欠のハガキを出されていない方で、参加される方はイ  
ベント担当・ 榊次郎宛てTELしてください。

TEL 06(6574)1085

同人誌への詩やエッセイ発表以外の活動をなさった  
会員の皆さんからの、情報をお待ちしています。  
60字以内に納まるように文面を調整して編集担当の  
永井までハガキやファックスやメールなどでお知らせ  
下さい。その際「会報掲載希望」と明記してください。  
大切な6頁欄外に記してありますが、いつでも受け付けていますので、どうぞ遠慮なく。

## 「会員の活動」はあなたの貢献です

## 新入会員の紹介

阪井達生（さかいたつお）氏

無理やりの入会をさせた榎次郎氏とは、一昨年

小野十三郎賞の受賞式会

場でなんと40年ぶりに再

会し、その後交流させて

いただいております。詩

作を再開して3年が過ぎました。「軸」「異郷」同

人。詩集『おいしい目玉焼きの食べ方』を昨年の



夏に発行。大阪文学学校に在学しています。

〒545-0014 大阪市阿倍野区西田辺町2-5-22

## 運営委員会の模様

2016年8月20日午後2時～5時5分

エルおおさか 出席19名

①入退会 1名を入会承認し、1名退会で、現会

員数288名。

②名簿 住所及びメールアドレス・会員番号の変

更。

③会計報告 『自選詩集』第8集の会計報告。

④ホームページ アクセス数は、前回比225増。  
月100件位の増加。現在3会員の詩掲載。

⑤会報 原稿〆切は、8月末日。発行、10月1日。

⑥詩画展 参加予定者30名。搬入・9月1日、午後2時。搬出・9月15日、午前10時

⑦詩話会 参加予定者40名（8・18現在）。（後日、

⑧詩のイベント 5行詩のテーマは、「駅」または「自由作品」。現在、まだ参加者が少ない。委員

朗読に変更。）

⑨自選詩集 詩集の「前書き」は、代表執筆。

⑩総会 準備状況の確認。総会の場合の講師謝礼等々の

討議。『自選詩集』の朗読者、12名の会員の名が

挙がる。委員から依頼する。

⑪その他 (1)来年度の運営委員改選に伴う選挙管理委員会

に向けての討議。なお、代表候補について、

各委員から名前が挙がったが、討議は総会終了後速やかに行う、等々が話される。

(2)継続審議となつている「自作詩朗読合評会」の討議を重ねられたが、結論を得ず、継続審議となる。

(文責 吉田定一)  
（メールアドレス変更）

青木春菜氏	525-0025	草津市西渋川1-11-24
アルコート草津504	落合方	
今井直美男氏	636-1071	奈良市北葛城郡高塚台1
登り山泰至氏	589-0031	大阪狭山市池之原1-1288
森田進氏	352-0011	埼玉県新座市野比止6の4
（26の704		
（メールアドレス変更）		

下田喜久美 kikumi1229@m01.p-c.ne.jp

## 会員の活動

有馬敵氏・赤城乳業のアイスクリーム「ガリガリ君」の値上げCMが4月1日にオンエアされた。バスクミュー・ジックは氏の「変化」という詩を高田渡が作曲したもので、このCMはユーチューブで、今も見ることができる。中島省吾氏・著書『もつともと幼児に恋して下さい』がサピエ図書館より点字図書で出版された。

井上良子氏・9月3日第41回童謡祭 東京板橋 文化会館にて日本童謡協会主催があり、作詩「でんぐりがえり」が発表された。3月19日府中芸術の森文化会館で合唱曲「ひまわり」が発表された。

上村多恵子氏・来年「奈良国民文化祭」が開催される。そのために「国民文化祭なら2017現代詩部門・実行委員会」を、関西詩人協会・日本詩人クラブ・日本現代詩人会の奈良県在住の賛同者18名で7月10日に立ち上げた。

尾崎まこと氏・6月6日～12日、大阪江之子島にて写真三人展。

左子真由美氏・8月21日、京都音楽サークル協議会「夏の詩の教室」で講師。

大倉元氏・来年「奈良国民文化祭」が開催される。そのために「国民文化祭なら2017現代詩部門・実行委員会」を、関西詩人協会・日本詩人クラブ・日本現代詩人会の奈良県在住の賛同者18名で7月10日に立ち上げた。

《会員が発行または編集する詩誌》	
イリップス No. 19	松村信人と
イリヤ 17号	尾崎まこと
銀河詩手帖 第277・278号	近藤摩耶志田静憲
秋桜 第19号	佐相信一郎志田静憲
コールサック 87号	佐相信一郎志田静憲
サイプレス 15号	岸田裕史志賀英夫
柵 12号	志賀英夫三郎
軸 120	竹内正企志賀英夫
詩人学校 791～793号	西崎想夫志賀英夫
春夏秋冬 No. 11・12	小林尹夫志賀英夫
新燎原 第19号	野の花 第66～68号
リビエール 147・148号	横田英子志賀英夫
P.O. 162号	左子真由美志賀英夫
ぼとり個人誌 43号	武西良和志賀英夫

詩を朗読する詩人の会「風」ゲスト  
9月西きくこ氏、10月田島廣子氏

佐相憲一氏・「週刊朝日」に編著『海の詩集』が取り上げられる。「北海道新聞」に代表を務める小熊秀雄協会に関する記事が出る。「しながわテレビ放送」にて第11回朗読生放送司会と詩朗読。

田村照視氏・韓国でハングル版「雲の嶺」発刊。出版社報告92冊販売

原圭治氏・7月26日、政令指定都市移行10周年・第128回堺市役所開庁記念式典で市の文化振興に貢献したとして「堺市功績者」の表彰を受けた。

村田辰夫氏・朝日新聞8月13日に17歳で陸軍少年通信兵として中国で戦う。詩「少年兵デイブ・ネビソン君」を中心に戦記事が掲載された。

安森ソノ子氏・英語の詩「自生の薬草」が大判一枚仕立ての二〇一七年のカレンダーとなつて発売中（東京都美術館企画）。11月下旬に北米で開催される第24回世界詩人会議発行のアンソロジーに英語詩「舞いの舞台」が掲載決定。

山田兼士氏・「作詞」の仕事をしました。予めキイワードが与えられているので正確には「補作監修」といったところ。「府中小学校の子供たち」作詞、田中久美子作曲「府中湖の歌」。10月2日坂出市府中湖で初演予定。

第12回日本詩歌句隨筆評論大賞の詩部門優秀賞を水野ひかる氏の詩集『水辺の寓話』が、奨励賞を橋爪さち子氏の詩集『薔薇星雲』が受賞した。

黄金のあみ（創作童謡の会）第一回発表会

7月3日有馬敵代表、すみくらまりー、下田喜久美、秋月夕香会員の詩が演奏された。

名月に詩を読もう10月14日（金曜日）18時～19時

場所 枚方鳶屋書店 4階 500円  
主催 井上良子（080-5638-1392）

詩の実作講座 午後6時～9時  
10月22日（土）「実作」その場で題を決めて詩を作ります。  
11月26日（土）「金子みすゞ」講師・藤谷恵一郎  
12月24日（土）「阪田寛夫詩集『わたしの動物園』をめぐつて」講師・吉田定一

《会員の新刊詩書》

有馬敵著『言語録』土曜美術社出版販売

岡田直樹詩集『流星群』オアシス書房

佐古祐二詩集『丈高い赤いカンナの花よ』（竹林館）

竹内正企詩集『竹内正企自選詩集』竹林館

西崎想詩集『四季 生きていく』翼出版企画室

風呂井まゆみ詩集『帰郷 早春の山ゆり』編集工房ノア

美濃吉昭詩集『或る一年 詩の旅』コールサック社

村田辰夫著「T・S・エリオット詩句・贊」（日本国際詩人協会発行）

《団体の会報・図書》

秋田県現代詩人協会会報 第54号  
いしかわ詩人十集 石川詩人会

いちご通信 第15号 大分県詩人連盟会報

茨城県詩人協会 No.22  
大分県詩人協会会報 No.146  
岡山県詩人協会だより No.17

オコス No.210 大阪文化団体連合会  
岐阜県詩人会会報 第7号

詩界通信 75号 日本詩人クラブ

静岡県詩人会報 128号  
スポーツと詩歌 2016 日本現代詩歌文学館

千葉県詩人クラブ会報 No.233  
中日詩人会会報 No.186

鳥取県現代詩人協会会報 第34号  
栃木県現代詩年鑑 2016 栃木県現代詩人会

福島県現代詩人会会報 第113号  
福島県現代詩集 福島県現代詩人会

福井県詩人懇話会会報 92号  
福井県詩人懇話会会報 39号

文芸年鑑 日本文芸家協会編  
北海道詩人協会会報 No.141

三重現代詩 100（記念号）三重現代詩の会  
宮崎県詩の会会報 38号

山形県詩人会会報 第30号  
横浜詩人会通信 No.298・299